



【施策の概要】

自然と調和した 村づくり

農業・産業

山あいの昭和村は総面積の91・8%が森林で占められ、農林業を基幹産業として発展してきましたが、農林業を取り巻く環境の変化に伴い、就業・生産額ともに減少をたどる厳しい状況におかれています。

しかし時代の多様化はさまざまな選択肢をもたらし、農業において花卉特に宿根カスミ草は全国でも有数の産地としての地位を築いており、米の販売額を超えた基幹作物となっています。

村では、地域の特性を生かした農作物の栽培とブランド化で、農業所得の拡大を図っています。

また、村の新しい産業として、からむしを生かした交流・体験型の観光施設を新たに建設するなど、兼業・高齢化が進む村が本来持っている技術や林



野資源を生かし、昭和村にしかできない産業振興のありかたをすすめています。



●かすみ草栽培

